

いのち輝かせて

誕生日おめでとう—君に贈る詩と詞

田中順一

目次

まえがき	5
二〇〇四年	9
月々の詩（二〇〇五年—二〇〇九年）	17
4月の詩	18
5月の詩	26
6月の詩	34
7月の詩	42
8月の詩	50
9月の詩	58
10月の詩	66

あとがき

卒業生に贈る詩	114
3月の詩	106
2月の詩	98
1月の詩	90
12月の詩	82
11月の詩	74

まえがき

多感な中学時代の成長は目を見張るものがあります。主に中学校の教員として子どもたちと接してきた私には、そのまぶしいほどの成長はうらやましくさえ感じるものが度々ありました。小学校を卒業したばかりの彼らと出会い、中学校三年間の課程を終えて新たな世界へ旅立っていく彼らに常にエールを送り続けた取組の一つが学校だよりであり、その中の「誕生日おめでとう」のコーナーでした。（それらの概要は先年、『村に吹く風―活力を生む学校だよりと国際交流―』（青山ライフ出版）としてまとめました。）

ここに所収の詩と詞は、二〇〇四年四月から二〇〇九年三月の五年間に発行した学校だより「とりどりの花」に掲載したものです。

「とりどりの花」はほぼ毎週一回発行、五年間で通算二二三号を数えました。

毎月一回は、その月に誕生日を迎えた生徒たちに誕生日のお祝いとして詩に詞を添えて、「誕生日おめでとう」のコーナーを設けました。

一年目の詩は毎回共通したものを掲載し、一年生なら十三歳（十三回）、二年生なら十四歳（十四回）、三年生は十五歳（十五回）と数字を入れ替えて三種類

の原稿を作成しました。二年目からは原稿を一種類とし、詩を毎月新たに作成しました。

私は縁あつて教師になりました。そして、縁あつて子どもたちと出会いました。彼ら一人一人は、長い人生において、多くの人と出会います。私もその一人に過ぎません。しかし、できるだけ互いに学び合う豊かな出会いでありたいと思ってきました。彼らとの出会いを、私にできる方法で少しでも実りあるものにしたたい。そして彼らには、実りある出会いであれ、そうでなくとも、一つ一つの出会いから学ぶ力を身に付けてほしいと願ってきました。人生の豊かさは、ある意味、人との出会いだと思ふのです。そのためには、私たち大人が、彼らにとって魅力ある大人であり、魅力ある生き方をしていくことが大切です。また、彼らが将来活躍する社会が魅力あるものでなければなりません。今日は必ずしもそうとは言ひ切れない様相を呈しています。なんだか息苦しさを感ずる社会です。

命が軽んぜられ、人と人との関係が希薄になり、自然の一員でありながら自然の移ろいにも疎くなつていく世相の中で、生まれるということ、生きていく、生きていくということの意味や命の重さを振り返り、考える機会を、私たちはどれ

ほどもっているでしょうか。

誕生日を迎えると、お祝いとしてケーキを買ってもらったり、食事に出かけた
り、プレゼントをもらったりすることはあるかもしれませんが。(すべての子ども
がそうなのではありません。)結婚するまでそういう機会のなかった私から見
ると、今日の子どもたちはとても幸せそうです。けれど、誕生を心待ちにし惜し
みない愛を注いで育ててくれた家族の思いを、生きていくことの意味を確かめる機
会になっっているでしょうか。生まれることにしても、生きていくことにしても、
実に多くの人々に愛され、支えられている、そのことに気づき、感謝する人であ
ってほしいし、それゆえ自分の命を、他者の命をいとおしむ人であってほしいと願
ってきました。周囲の人々の思いにたどりつく柔軟な思考や想像力、感性を備えた
人であってほしいのです。

「生きていくということは誰かに借りをつくること、生きてゆくということはその
借りを返していくこと」(『大往生』岩波新書) これは永六輔氏の言葉です。
中学生にはまだ難しいと思いますが、彼らにたびたび紹介し、この言葉の意味
が分かる大人になってくれることを願ってきました。

一年、一年、誕生日を迎え、成長を重ねていく。自分で自分の成長を確かめ、

多くの人の愛と支えに気づき感謝する。そして、次の一年に向けて決意する。誕生日プレゼントや豪華な食事がなくてもいい。誕生日を一つの節目として、そんな機会の一つになることを願って贈ってきた詩と詞をここにまとめました。私が出会った若者たちをはじめ、未来を生きる若者たちの前途が、叡智と希望と愛と豊かな感性に満ちあふれていることを願っています。

二〇〇四年

7月生まれのなかまたちに

生まれるということ

育つということ

生きているということ

君は君であるということ

生命は躍動しているということ

こと

君は十五歳

この世に

君は一人ということ

生命の輝き

生命の重み

一度きりの人生

今日の出会

※ ※ ※

◇七月、文月、「七夕」。牽牛星

と織女星が、年に一度天の川
で出会うという。しかし、あ

誕生日おめでとう

なたと親

の出会いはずと奇

遇。世の中に何十億の

夫婦がいて、その中の

一組の夫婦の子として

生まれ出会う。それは

まさに何十億分の一の

偶然。二つの星の出会い

以上のロマンがあります。

十五年前、梅雨

晴れの七夕の夜空に、

あなたの無事な誕生を

願った親の思いにたどり

つこう。そして、こ

の世に生を受けたこと

を感謝しよう。

◇星の子、願いの子、出会いを

大切にする人であれ！



○月生まれのなかまたちに

生まれるということ

育つということ

生きているということ

君は君であるということ

生命は躍動しているということ

君は十五歳（十三歳・十四歳）

この世に

君は一人ということ

生命の輝き

生命の重み

一度きりの人生

今日の出会い

誕生日おめでとう

4月

◇誕生日を迎えることは、人生において大切な一つの節目です。一年の自分の成長を確かめ、新たな目標を定めて出発し直す絶好のチャンスです。

◇春四月。草木芽吹き、花咲く時節。光おどり、水温む頃。死んだように冬を眠り続けた大地に新たな命がよみがえる。

◇自然の芽吹とともに君は生まれた。君の誕生を待ち続けた両親や周囲の人たちの温かなまなざしと愛の中で、若木のたくましい伸張にあわせるように君は健やかに育った。そうして今十五（十三・十四）歳。更にくすくす伸びていけ！